

平成23年度教育委員会事務点検評価(平成22年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

整理番号 13

事務事業の名称	スポーツボランティア制度運営事業		担当部課	教育委員会 生涯学習部 スポーツ振興課
			電話番号	04 - 2953 - 1111 内線 5711
実施期間	平成 19 年度 ~			
総合振興計画における位置づけ	5章	人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画(H22~24)事業名	スポーツボランティア制度運営事業
	1節	生涯学習の振興		
	2項	スポーツ・レクリエーション活動の促進	個別計画等の名称	狭山市スポーツ振興基本計画
	1目	スポーツ・レクリエーション活動の機会の拡充		
実施根拠	スポーツ振興法 狭山市スポーツボランティア制度運営要綱			
事業区分	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 法定受託事務+自治事務			
事業開始の背景等	市民のスポーツニーズの高まりに呼応して、スポーツに親しむ機会の拡充を図るためには、これまでの「するスポーツ」や「みるスポーツ」に加え「ささえるスポーツ」の重要性が高まってきていることを背景に、平成19年10月にスポーツボランティア制度を創設したものである。			

2 事務事業の目的・内容

目的	生涯スポーツの振興を目指して、ささえるスポーツの担い手としてのスポーツボランティアの普及と活動の促進を図る。
対象	市内在住又は在勤で中学生以上で「ささえるスポーツ」に協力できる方
活動内容	スポーツボランティアに協力できる者を登録し、要請に応じて、スポーツの指導や大会に派遣する。平成22年度は体育協会加盟団体、体育指導委員連絡協議会、各地区センター等に募集及び派遣について、チラシ等により周知したが、登録者は1名の増加にとどまり、派遣についてもなかった。
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価) <input checked="" type="checkbox"/> 継続
環境配慮	各教室や行事において、ゴミの持ち帰りの徹底を図った。
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他()

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度	目標値の根拠・考え方
(活動状況指標)	スポーツボランティア登録人数	目標値	人	20	25	33	43	前年度の目標値に対して30%増加を見込む
		実績値		15	25	26		
		達成率		75.0%	100.0%	78.8%		
	スポーツボランティア派遣人数	目標値	人	10	15	20	26	
		実績値		5	0	0		
		達成率		50.0%	0.0%	0.0%		
(成果指標)	目標値							
		実績値						
		達成率						
	目標値							
		実績値						
		達成率						

4 事業費

区分	単位	20年度	21年度	22年度	23年度		
		24	24	24	24		
経費	直接費	予算額	千円	24	24	24	24
		決算額	千円	5	0	0	
	財源内訳	国県支出金	千円				
		その他特定財源	千円				
		一般財源	千円	5	0	0	
	人件費	従事職員数	人	0.01	0.01	0.01	
		人件費(従事職員数×平均給与)	千円	92	92	90	
事業費計(直接費決算額+人件費)		千円	97	92	90		
効率性指標	指標名	スポーツボランティア登録人数	人	15	25	26	※1単位当たりの経費
	単位コスト	参加者一人当たりの経費	円	6,467	3,680	3,462	

5 事務事業の評価

◆第一次評価(担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	4 前年度 4	市民のスポーツ振興を図るうえで、「するスポーツ」や「みるスポーツ」に加え「ささえるスポーツ」の具体的な方策として、スポーツボランティアの必要性は高い。
	有効性	2 前年度 3	平成19年10月から制度を施行したが、これまでボランティアの登録者は少なく、派遣の実績も少ない。
	効率性	3 前年度 3	ボランティアによるスポーツ活動の支援が業務であり、市の経費負担はボランティアに対する保険料のみであることから、ボランティアの登録と派遣が増えることにより、費用対効果の面で高い効率性が期待できる。
<5段階評価> 5:極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い			
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了		
市民等への周知により一層取り組み、ボランティアの登録者の増加を図るとともに、スポーツ・レクリエーション団体をはじめとして、学校や企業等へボランティアの活用を働きかけ、派遣の拡大を図っていく。			

6 その他(学識経験者の意見等)

スポーツボランティアの運営は、その内容を明確化し、求められる技術等を明示することが必要となる。登録者が少ないということは仕組みに問題があるか、周知に問題があると考えられる。今後の社会ではボランティアは大きな支えになっていくと予想され、重要な事業になってくると思われる。また、この事業は、「学習成果の評価・活用」の事業でもある。教室事業や指導者育成事業と連携して進めることが求められるよう。この事業での学校・大学や企業との連携は速やかに進めるべきであろう。